



## <働いている人の収入の利用先>

### 自分で稼いだお金は 生活費と貯蓄と自分のお小遣いに

現在、働いている既婚女性に収入の利用先を、「生活費」「教育費」「託児・保育費」「自分のお小遣い」「貯蓄」をあわせて10になるようにわけるとどのくらいの割合になるかたずねた。

「生活費」「貯蓄」については、自分の収入のどのくらいを当てているかは人によって割合がばらける。

「1～3割生活費にまわす」という人が3割強と一番多いが、「7割から10割がた生活費にまわす」という人も5人に1人。

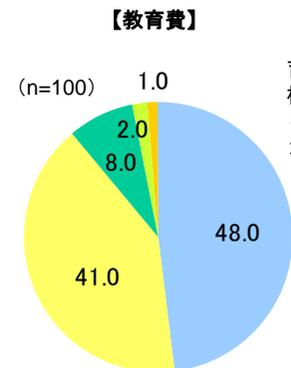
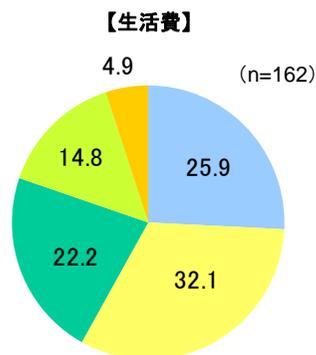
また「1～3割を貯蓄する」という人が3割強と一番多いが、「ぜんぶ貯蓄する」という人も1割弱いる。

「自分のお小遣い」については、収入の1～3割を自分のお小遣いに行っている人が6割と最多。

「教育費」「託児・保育費」には自分の収入を使っていない人が一番多く、使っていても「1～3割」ぐらいのよう。

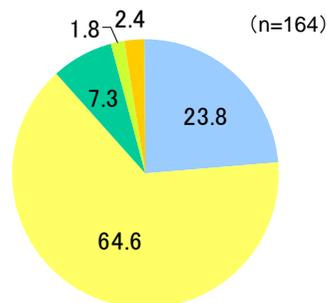
(グラフ①)現在、働いている方にうかがいます。あなた自身の収入は下記項目それぞれに、どのくらい使っていますか。トータルが10になるように、配分を選んでください。

■ なし ■ 1～3割 ■ 4～6割 ■ 7～9割 ■ 10割 (数字はすべて%)

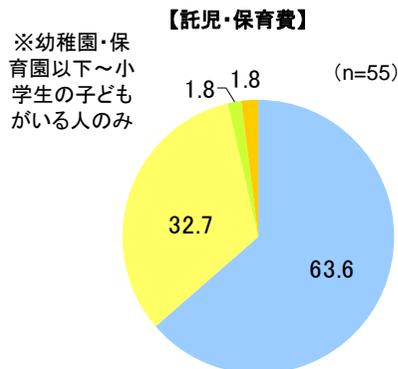


※幼稚園・保育園以下～高校卒業以上の学生の子どもがいる人のみ

### 【自分のお小遣い】

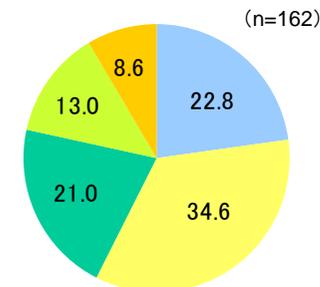


### 【託児・保育費】



※幼稚園・保育園以下～小学生の子どもがいる人のみ

### 【貯蓄】



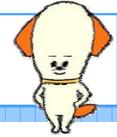
### <回答者プロフィール>

- 平均年齢: 45歳 ● 配偶者: あり 100%
- 子どもの有無: あり 77.5%、なし 22.5%

**リビング暮らしHOW研究所** 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430



## <今後働きたいと思うかと、その理由>

### 現在、働いていない主婦の7割弱が すぐ、もしくは将来的に働きたいと思っている

今後、働きたいと思うかどうかについては、「すぐにも働きたい」「将来的には働きたい」あわせて7割弱の人が労働意欲があると答えており、30代以下では8割超の人が働きたいと思っている。

年代別で見ると「将来的に働きたいと思っている」のは30代以下に多く65.4%。「すぐにも働きたいと思っている」のは50代に多く32.5%だった。

### 生活費と教育費のために働きたい20～40代、 自分で自由に使えるお金が欲しい50代

「すぐにも働きたい」「将来的には働きたい」と答えた方に働きたい理由を聞くと、「生活費のため」が最も多く、次いで「貯蓄のため」「自分で自由に使えるお金が欲しい」が続く。

年代別に見ると、「生活費のため」「子供の教育費のため」は年代が若いほど割合が高く、30代以下で8割強。

50代は「自分で自由に使えるお金が欲しい」、60代以上は「社会貢献」を挙げた人が多かった。

また、「自己実現」のために働きたいとする人は30代以下～50代ではどの年代も3割弱ぐらいいる。

### <回答者プロフィール>

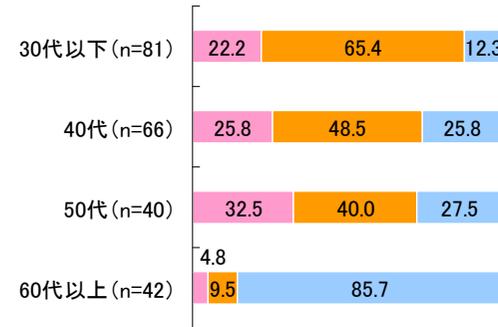
- 平均年齢:45歳 ●配偶者:あり 100%
- 子どもの有無:あり 77.5%、なし 22.5%

**リビングくらしHOW研究所** 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

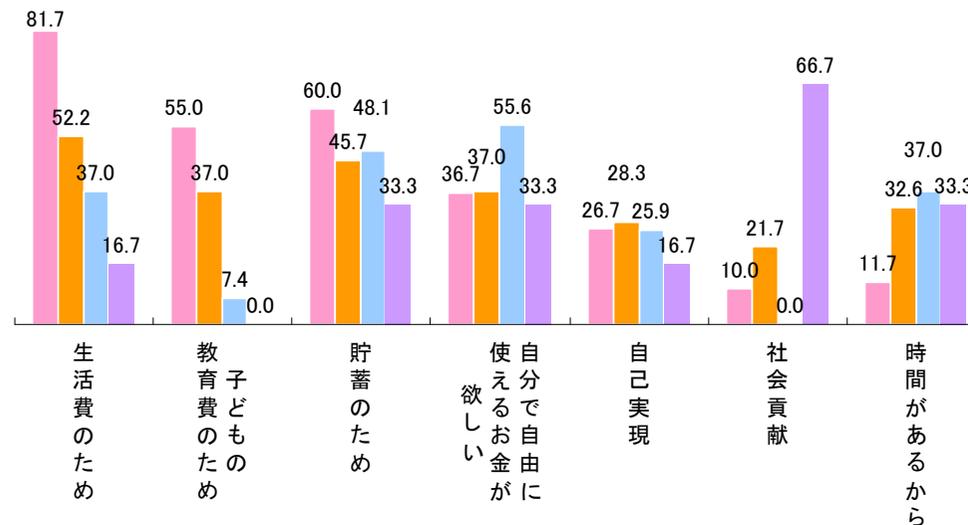
(グラフ②)現在、働いていない方にうかがいます。今後、働きたいと思いますか？



- すぐにも働きたいと思っている
- 将来的には働きたいと思っている
- 働きたくない

(数字はすべて%)

(グラフ③)「すぐにも働きたい」「将来的には働きたい」と答えた方にうかがいます。働きたい理由は何ですか？(いくつでも)



- 30代以下 (n=60)
- 40代 (n=46)
- 50代 (n=27)
- 60代以上 (n=6)



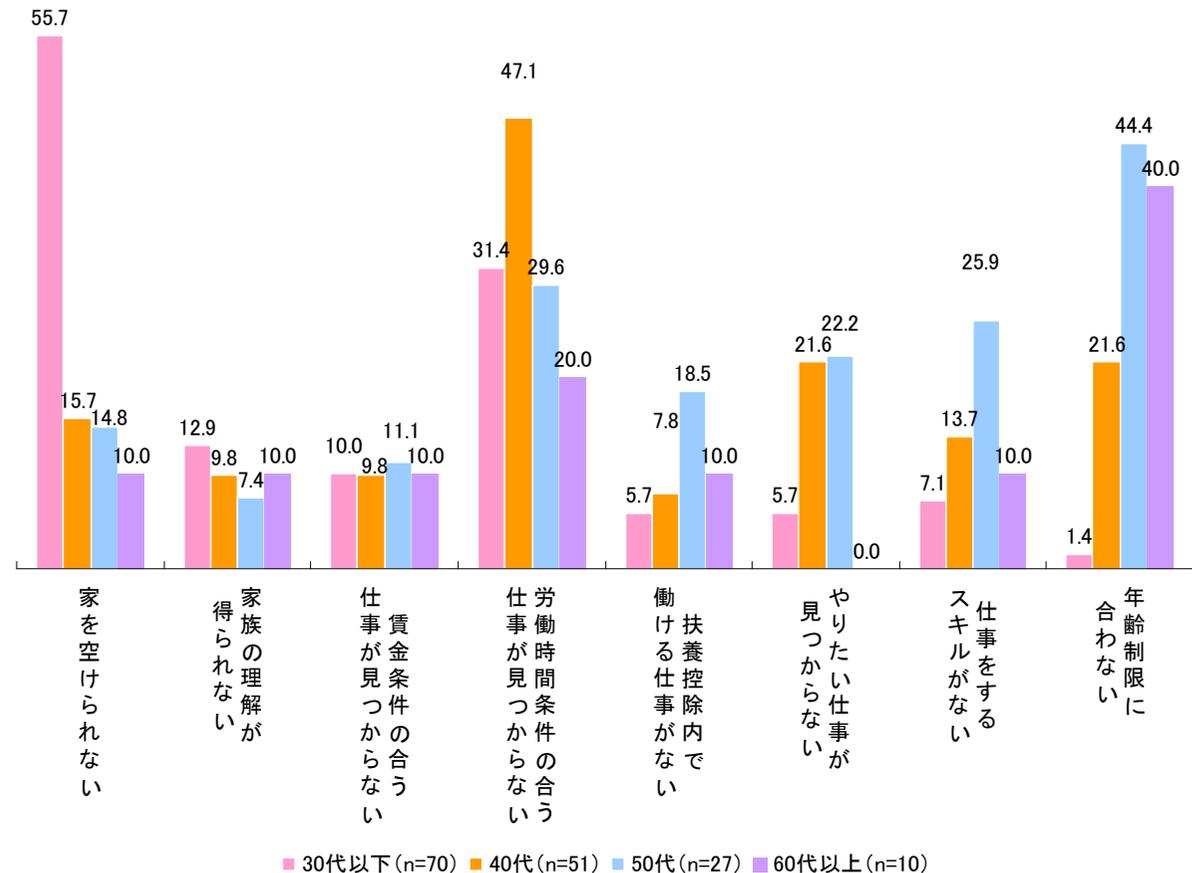
## <現在働いていない理由>

30代以下の半数は家を空けられず、  
40代の半数は労働時間条件の合う仕事が見つからない

「すぐにも働きたい」「将来的には働きたい」と答えた人の現在働いていない理由は、「家を空けられない」「労働時間条件の合う仕事が見つからない」「年齢制限に合わない」などが全体的に多い。

年代別で見ると、「家を空けられない」のは30代以下に、「労働時間条件の合う仕事が見つからない」のは40代に、「扶養控除内で働ける仕事がない」「仕事をするスキルがない」のは50代に、「年齢制限に合わない」のは50代・60代以上がダントツに多い。

(グラフ④)「すぐにも働きたい」「将来的には働きたい」と答えた方にうかがいます。  
現在働いていない理由は何ですか？(いくつでも)



## <回答者プロフィール>

- 平均年齢:45歳 ●配偶者:あり 100%
- 子どもの有無:あり 77.5%、なし 22.5%

リビング暮らしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

(数字はすべて%)



<働くために準備をしていること、  
政府による主婦の再就職支援に望むこと>

## <回答者プロフィール>

- 平均年齢:45歳 ●配偶者:あり 100%
- 子どもの有無:あり 77.5%、なし 22.5%

**リビングくらしHOW研究所** 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

【「すぐにでも働きたい」「将来的には働きたい」と答えた方にうかがいます。  
働くために、準備をしていることはありますか？】

- ・Web制作の勉強を独学でしています。(大阪府・35歳)
- ・パソコンを勉強中です。(千葉県・44歳)
- ・独学で簿記を勉強して、簿記3級、2級の資格取得を目指しています。(宮城県・29歳)
- ・ハローワークに定期的に通っている。(広島県・48歳)
- ・求人を見てどんな募集があるか日ごろからチェックする。(栃木県・28歳)
- ・フリーペーパーなどで募集記事はチェックしている。子供たちに施錠やもしもの時の行動などは伝えている。(静岡県・43歳)
- ・生活のリズムを崩さないように、短期の仕事を時々している。(大阪府・41歳)
- ・体力が衰えないようにスポーツ関係の習い事をしている。(埼玉県・56歳)
- ・保育園などの育児支援について調べている。(東京都・39歳)
- ・娘が幼稚園を卒業するまでに、医療事務か何らかの資格に近い習い事をおこなうかと計画中。(大阪府・37歳)
- ・いつでも援助してもらえるように実家の両親に近くに引っ越してきてもらった。(大阪府・44歳)

【「すぐにでも働きたい」「将来的には働きたい」と答えた方にうかがいます。  
政府が主婦の再就職支援を強化する動きがあります。あなたは何を望みますか？】

- ・時間や働き方に多様性がほしい。(愛知県・55歳)
- ・子供が未就園児位のママには、まずは、低料金での預け先を容易に確保できる環境が第一ではないでしょうか。また、どの年代でも、勤務日数・時間の多様化、週に1日、数時間からでの採用を本当にしてくれるような環境が無いと、いきなり週5日9時～17時とか無理なので、とにかく、多様な環境を整えてほしい。(東京都・39歳)
- ・年を取ると年齢がネックなので、年齢に関係なく採用してくれる企業が増えてくれることを望みます。(鹿児島県・53歳)
- ・働く際の年齢制限を撤廃してほしい。子育てが終わって社会復帰しようと思ったら、40代になっている。40、50の主婦を雇おうと思う企業はあまりない。また、保育料を下げ、最低賃金をもっと引き上げてほしい。今のままだと、働いても、保育料でとられ、ほとんど手元に残らないと聞いた。(和歌山県・31歳)
- ・仕事探しでも学童を利用できるようにしてほしい(兵庫県・30歳)
- ・保育園の充実。子供が病気をした時、休める仕事環境(職場の理解)が欲しい。(宮城県・29歳)
- ・女性はもちろん、配偶者である男性へも働く女性をサポートする仕組みを強化してほしい。男性がもっと育児休暇を取りやすい環境にするなど。(静岡県・36歳)
- ・主婦だけでなく夫も家庭に参加できるように会社・社会の理解を深めてほしい。主婦が働けるようになって夫の職場環境が変わらなければしんどいのは主婦だけ。(大阪府・38歳)
- ・時間短縮で働く結局十分な仕事が出来ず後ろめたい気がしてなかなか復帰できない。ワークシェアリングの制度を整備して、他の主婦と協力してフルタイムの人と同じ働きを出来るようにしてほしい。(東京都・39歳)
- ・資格取得のための助成金の援助、就職先の斡旋(宮城県・59歳)
- ・再就職するための職業訓練が受けられたり、そのまま雇用に直結するようなシステムがあれば。(大阪府・44歳)
- ・扶養控除の条件を改善してほしい。(東京都・47歳)
- ・企業への雇用助成金等の支給で短時間雇用を採用しやすくする。(茨城県・50歳)
- ・定年を過ぎている人が趣味や時間つぶしなどで働いていて、実際子どもを預けて働きたい人や、教育費が嵩みもっと働かないといけない人が、働けない環境です。趣味や時間つぶしなら、ボランティアで欲しい。若い世代が、働けない環境は異常です。今後10年、20年後のことを考えたら怖すぎます。(神奈川県・45歳)